

# 平成29年度 全国学力・学習状況調査結果の概要について

可児市教育委員会

## 1 調査の概要

### (1) 調査の目的

- ・全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上のため、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育の結果を検証し、その改善を図る。
  - ・可児市教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において、自らの教育の結果を把握し、その改善を図る。
- \*本調査の結果は児童生徒の学力の特定の一部を示すものであり、この結果のみで児童生徒の学力の全体を判断できるものではありません。

### (2) 対象学校・児童生徒

- ① 可児市内全公立学校 【11小学校（6年生） 5中学校（3年生）】

### (3) 調査内容

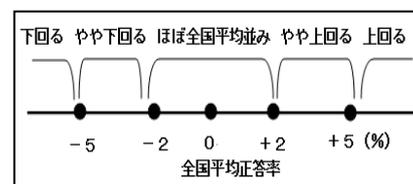
- ① 教科に関する調査（国語、算数/数学） ② 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

### (4) 調査日 平成29年4月18日（火）

## 2 可児市における調査結果の概要

### (1) 可児市の傾向について

- 全体的には、小学校は、全国平均をやや下回りました。
  - ・小学校国語A（主として知識）では、全国平均をやや下回りました。
  - ・小学校国語B（主として活用）では、全国平均をやや下回りました。
  - ・小学校算数A（主として知識）では、全国平均を下回りました。
  - ・小学校算数B（主として活用）では、全国平均をやや下回りました。
- 全体的には、中学校は、ほぼ全国平均並みでした。
  - ・中学校国語A（主として知識）では、ほぼ全国平均並みでした。
  - ・中学校国語B（主として活用）では、ほぼ全国平均並みでした。
  - ・中学校数学A（主として知識）では、ほぼ全国平均並みでした。
  - ・中学校数学B（主として活用）では、ほぼ全国平均並みでした。



### (2) 教科に関する調査結果の分析の概要

- 調査項目ごとに、全国と本市を比較すると、よくできている項目と課題となる項目は、ほぼ一致します。
- 課題となる特徴的な設問は、次の7点を挙げることができます。
  - (「」内は、設問の概要や出題の趣旨 ( )内は、評価の観点)
  - [小国]A「学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く」  
(言語についての知識・理解・技能)
  - [小国]B「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉える」(読む能力)
  - [小算]A「円を使って正五角形をかくとき、円の中心のまわりの角を何度ずつに分割すればよいかを書く」(数量や図形についての知識・理解)
  - [小算]B「仮の平均の考えを活用して、測定値の平均を求める」(数学的な考え方)
  - [中国]B「表現の仕方について捉え、自分の考えを書く」(書く能力)
  - [中数]B「証明した事柄を用いて、新たな性質を見いだす」(数学的な技能)

### <課題解決へのてだて>

- ・小国語Aでは、基礎・基本的な漢字の理解をどの児童にも定着させていくために、引き続き、漢字ドリル等を活用しながら指導していきます。この活動は、国語科の学習のみならず、各教科等の学習や日常生活においても重要となるため、家庭の協力を得ながら取り組みます。

- ・小国語Bでは、文章に書かれている話題、理由や根拠となっている内容などに着目し、文章の重要な点を表現に即して的確に押さえながら読み取ることができるように指導します。
- ・小算数Aでは、引き続き計算ドリル等を用いて、基礎・基本的な数量や図形についての理解を図るとともに、特に図形の性質については、正しく理解できているのかに着目し、一人一人の学習状況や定着状況を見届けるようにします。
- ・小算数Bでは、日常生活の事象を表やグラフを用いて考察したり表現したりするなど、数学的な考え方の幅が広がるような授業改善を図ります。
- ・中国語Bでは、語句についての理解を深めるとともに、辞書や資料集などを活用しながら、着目した言葉について、複数の類義語で言い換えたり、比喩を用いて表現したりするなど、表現の仕方を広げるように指導します。
- ・中数学Bでは、実生活での問題を解決する活動を取り入れたり、自分とは異なった考え方に気付くことができるように意見交流の場を多くしたりするなど、目的に応じて必要な情報を適切に選択し、事象を数学的に表現し処理できるように指導します。

### (3) 児童生徒質問紙に関する調査の分析の概要

各質問項目に対する回答の割合は、本市もほとんど全国と同様の傾向を示しているといえます。その中で、全国平均と比べて、(回答1「当てはまる」が、全国平均より特に高かった項目)について、以下に示します。

#### 【学校生活について】

- 「学校のきまり(規則)を守っていますか」小+13.7 中+8.9
- 「人が困っているときは、進んで助けていますか」小+5.4 中+6.7
- 「授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか」小+8.0 中+7.5
- 「先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか」中+10.8

#### 【家庭生活について】

- 「家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている」小+5.7 中+5.8

#### 【地域とのかかわりについて】

- 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」小+23.6 中+35.0
- 「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」小+28.6 中+37.0

学びにかかわる質問について、全国的に全国比より高く、充実した授業が行われています。また、地域の行事やボランティア活動に参加する児童生徒が多く、地域との関わりは深いです。家庭生活に関して、「家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている」と回答した児童生徒が全国平均より多かった点については、家庭・地域とも連携しながら改善していきます。

これまでの調査とともに、本調査結果を今後の指導の改善を図る資料として活用していきます。

### 3 全国学力・学習状況調査の活用について

- ・本調査において、正答率が低い問題については、市全体で課題を共有し、全職員の共通理解をもとにして、日々の授業改善に取り組みます。
- ・各小中学校においては、これまでの全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、基礎的、基本的な知識・技能を確実に習得させるとともに、主体的・対話的で深い学びが授業の中で行われる学習を充実します。また、「わかる、できる授業」となるように岐阜県が重視している「3つの見届ける(実態を見届ける・学習状況を見届ける・定着状況を見届ける)」を確実にを行う授業を目指して取り組んでいきます。
- ・引き続き、『家庭生活5つのポイント』を活用して、保護者に「学力」と「児童生徒の意識・生活面」とのつながりについて伝えていきます。「①生活のリズムを整える ②時間を活用する ③ふれあう時間をつくる ④よさを認め励ます ⑤地域との関わりを深める」ことで、家庭における基本的な学習習慣や生活習慣の確立を図ります。